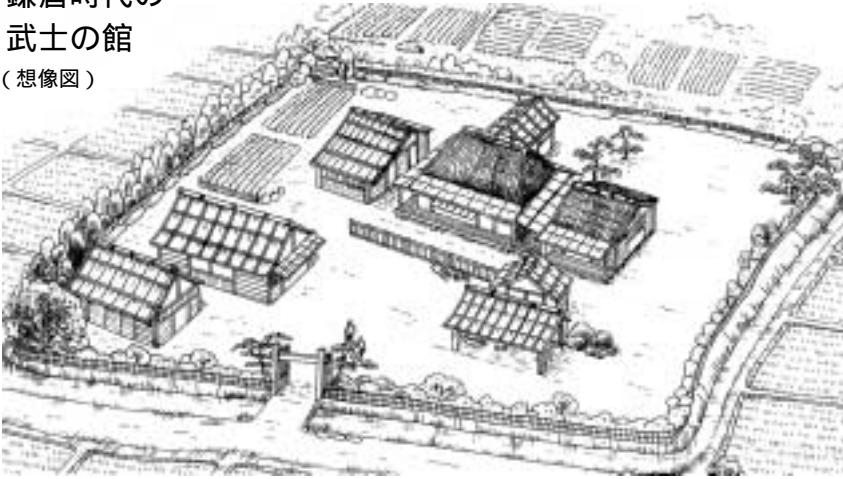


いつの時代も、天下を支配する将軍との関わりが深かった掛川

# 山内一豊までの掛川の武将たち— ①

## 鎌倉時代の 武士の館

(想像図)



原氏の墓 (照月寺・本郷)

## 鎌倉時代の掛川の武士

今から約800年前の源頼朝の時代には、幕府や寺院が所有する地方の荘園を管理するために、中央から管理人が派遣されていました。荘園の管理人は、年貢を集め、水争いの調整や新しい水田の開墾をしていました。また、中央政府の政権争いで、地方への力が弱まると、地方武士として力をつけ、それぞれの地域で支配地域を広げて行きます。

原野谷川流域の原田地域には原氏が、上小笠川流域の内田地域では内田氏が力をつけていました。彼らは、日ごろは農作物の収穫に努め、時には、中央の政変にともなう勢力争いに協力・参加をし、代表を戦場に送る生活をしていました。いずれの武士たちも、お米の良くとれる地域に領地を広げていきました。

原氏や内田氏などの地方武士の時代は、今川氏がこの地を支配するまで約300年続きました。

## 内田地域の武士

### 巴御前と戦った内田家吉

1184年、源範頼・義経が率いる頼朝の軍は近江(滋賀県)で源(木曾)義仲軍と戦います。内田地域の武士、内田家吉は家来30人余りを引き連れて頼朝軍に加わり、敵将の義仲に従っていた巴御前と出会います。巴御前は、勇ましく強いと評判の女性です。家吉も敵将の義仲がほめるほど強い武士でした。二人は一騎打ちをし、家吉は、巴御前に討たれてしまいます。

家吉の子孫は、承久の乱(1221年)の時、幕府の軍に加わって戦いました。内田氏は、その活躍により、石見(島根県)に地頭職を与えられ、移り住みます。しかし、一族全員が移り住んだのではなく、内田地域に残った人もいたようです。

遠江の国守であった平重盛・宗盛が大須賀地域を所領していたとされています。(1158～1160年ころ)西大洲の普門寺には、重盛供養の古い位碑があります。春、境内には藤の花が咲き、夏、弁天堂を囲む堀には、みごとな蓮の花が開きます。

## 原田地域の武士

### 義経に従い一ノ谷の戦いで、平氏を破った原清益

鎌倉時代、原野谷川流域にあった原田荘の地頭に、原氏という武士がいました。原氏は、荘園の一部を支配する地頭から少しずつ勢力を伸ばし、15世紀の後半には、荘園全体を支配する地頭になりました。

1184年、源(木曾)義仲を討ち滅ぼした源義経は、一ノ谷(兵庫県)の平氏を攻めました。この時、義経軍に従った武士の名前に、原氏の先祖と考えられる原清益という名前があります。

## 普門寺の弁天堂

